

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十五年紀元二千五百七十二年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久神一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番 振替口座京城四五六一番
仁川支局 仁川京町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

寄書

スカンヂナビヤ十年間の見聞（十）

在瑞典ストツクホルム 三浦彌五郎

▲解氷船の効用と朝鮮 試みに北西朝鮮地方の參考の爲めに當地碎氷船の遣り方を略述すべしストックホルムより結氷せざる外海に出づる所迄は狹長なる入江の長さ四里許りあり結氷期に入れば七八十噸に過ぎざる構造堅固特に其舳を堅固に造りたる碎氷船は毎早朝ストックホルム港を出發して外海に出づる所迄出向き更に同じ途を引返して正午頃には歸還す冬期中毎日々々同樣の往復を繰り返す次第にて斯くするときは周圍の氷は一尺二尺の厚さとなりても一夜の間に結氷する氷の分量は少なきを以て毎日碎きつゝある部分は容易に碎氷することを得て恰も結氷面に一條の掘割を作りたる姿となり其の掘割の處を普通の汽船は往來するなり故に例へば鴨綠江、大同江又は漢江に於ても其の結氷期間普通船舶を引續き通航せしむること經濟上果して利益あるや見込あらば稍々堅固なる碎氷汽船を用意し河身必要の距離の間に往復せしめ其作りたる氷の堀割を普通船舶の航行に供すれば足るべし其の代り河を横り氷上人馬の往來は堀割の爲めに妨げらるゝを以て取外づしの出來る橋を必要の個所に架せざるべからず、聞く所に依れば碎氷事業に經驗少なき我國の船長は結氷面に船を遣るときは忽ち氷の爲めに閉ぢ込められんことを恐るゝ由なるも大抵の寒氣にて一夜の間に閉ぢ込めらるゝものにあらず、且つ流氷の大塊は危險なれども碎氷船にて碎きたる小塊の如きは恐るゝに足らざるなり又當國にては四月頃解氷期に入るときは其の解氷を速ならしむる爲め碎氷船に縱横に氷面を碎き廻るを見る、

▲瑞典式体操の特色あることは京城教育會席上確か三浦校長より聞き及びたりと記臆す着任後人を案內し又は自ら參觀する爲め既に數回當地の中央体操教習所を見舞ひたり同教習所は實に百年前の創設に依り當國体操の歴史と共に其の由來頗る古し四十三年中高等師範の水井道明氏は同教習所に入學して數ケ月間体操を稽古し又昨年十二月初旬陸軍中尉林保吉氏は當國体操研究の爲め來瑞一ヶ年半留學の豫定にて既に同所に入學したり目下同所にて研究しつゝある外人には英人四名、希臘人一名、ルーマニヤ人一名、ポーランド人一名あり、先年佛國政府は体操調査員を當國に派遣し其の研究の結果學校の体操より軍隊の夫れに至る迄体操敎範を一變せりと云ふ我体操は主として亞米利加式及獨逸式を採り幾分瑞典式を加味し居る由なるも我國の瑞典式と稱するものは稍々其の外形を模倣したるに止まり其の心髓を咀嚼し居らず林氏研究の結果は何れ我國に於ける普通教育の体操と軍隊教育に於ける体操との連絡上並に一般体操敎範の規定上多大の改正を見るに至ることあらんも現に研究中の其人あるに付當國体操に就ては詳述せざるべし

●海苔製法改良

全南

全羅南道南海岸多島海方面の地方は乾海苔の産地として知られ其の品質も優良にして産額亦多きにも拘らず採取に從事する朝鮮人にして生海苔を洗滌して之れを切り刻み清潔なる簀に乾燥する等の內地式製法を熟知するもの絶ねて無き爲め其の製品は一枚漸く八毛十枚一束八厘內外の價格を以て賣買せらるゝのみなるを以て全羅南道廳にては昨年其の主産地として知られたる興陽長興地方の海苔採取業者に右內地式製法を敎習せしめたるに其の製品は少くも內地の廣島産海苔に比して遜色なく或は往々にして淺草海苔に匹敵するものさへあり其の賣買價額の如きも亦十枚四錢即ち從來の四倍以上を以て容易に賣買せらるゝに至り該地方鮮人を利すること少なからざるを以て今春は更に多くの巡回講師を派遣し南海岸地方一般の人民に新式採取法を普及し海苔の改良を計るといふ

外事一束

▲獨逸 總選擧決選投票第一結果は自由黨急進派勝利を占め社會黨失望すと

▲伊土 兩國の講和條件意嚮を探索すべく獨逸外相羅馬に伊國政府を訪問す

▲埃及 ガゼツト英國の法令を採用し同時に混合裁判中止の件々を要求せり

▲墺國 皇太子並に同妃殿下獨帝誕辰に伯林を訪ひ其折皇孫の命名式を擧ぐと

▲獨紙 新陸軍法案に關し更に步兵二師團山砲隊若干部隊の新設を要求す

▲海牙 の鴉片會議愈最後の決議案を通過し茲に同會議の目的達せられたり

▲病氣 の爲め墺國外相辭職せるも同國外交政策は何等の變調なけれと傳ふ

▲市民 たる能はざる外國人の入國を禁ずとの移民法に對し日本人の入國を禁止するものなりとして桑港在留の日本人右條項削除の運動を開始せり

梁川庄八

第八十七回　小金井蘆洲演

専『罪人搜索の儀御苦勞に存ずる』と庄八より委細の話を聞取り 専『左樣の次第で有れば早速處分致すよう取計うであろう』兎に角に其許は事落着迄旅宿に控へ居るやう』と申聞けて旅宿に引取らせた、事容易ならぬ次第であるに依て、本多長門守は逹は江戸表に申立て何分の指圖を仰がなければならぬと云ふので、取敢へず町奉行藤本下總守に此程裁判中の若王子長左衛門暗殺事件は詮儀の筋之あるに依り暫く御吟味猶豫ありたき旨を御逹しになつた、何で城代が此一件に就て吟味猶豫に及で貰ひたいと云ふのであるか、如何にも不思儀な事と藤本下總守は大きに不審に思つて居ります其中に江戸表に至急此事を進達致したものでございます江戸表に於ては御老中若年寄御評議の上覓助太夫と云ふものを使として江戸表より甲府へ遣す事に相成つた、そこで助太夫は藤本下總守を江戸表へ召還しの御用箱を受取り甲府に赴き、其命を傳へたので下總守は急に御役御免となつて江戸表に引返される事になりました是に於て覓助太夫は御城代本多長門守に御打合せの上代官松村五太夫に預けある、件藏萬八兩人を引渡すべき旨助太夫より更めて逹しに相成つたものですから、代官は手代差添へ右兩人を甲府町奉行役宅へ差立に相成り取調べに及ぶと兩人共恐入つて是までの罪惡を逐一白狀致しましためて奉行役宅に於て口證爪印をさせ一

長左衛門を殺した犯人は件藏萬八の兩人に相違ないと極りましたそこで助太夫は勇吉を始め奉公人一同を呼出に成り、又牢內より齋藥屋の才助を呼出しましたが、才助は長々の拷問に身疲れ果てゝ、顏色憔悴形容枯槁見るも氣の毒なる風采、覓助太夫は件藏萬八の兩人を正面に据置きて言渡した其次第は 助『去る八月廿三日の夜若王子村名主件藏、同村織元長左衛門に重々の宿意之あり其意恨を晴さんが爲め、同村の博徒萬八に喰はしむるに利を以てし之を教唆して同夜庭口より忍入り長左衛門を殺害せしめたる次第は本人共の白狀に依て明白なり依て件藏萬八兩人は引廻しの上獄門申付る者なり云々』と申渡し夫から齋藥賣才助に向ひ 助『其方儀前奉行の嫌疑に依て一應牢問拷問に掛けられしなれども此度犯人を召捕り斯く白狀致せし上からは、最早嫌疑も晴れたるに依り、此場に於て繩を解き勇吉に引渡す、者共早々才助の繩を解け』と下知の許に同心等は其場に於て直に才助の繩を解きましたが、流石の才助も朝夕の拷問に心身疲れ果て神氣恍惚として暫時はウットリと致して居ります、勇吉は恩人才助の繩が解けて青天白日の身となつだのですから兩手を白洲に支へて厚く御禮を申上る、そこで野村件藏萬八の兩人は其儘白洲を引立てられて一先牢屋へ入れられる此方は勇吉才助の刀金品を受取りて喜んで、才助を脊負ふて腰掛に退り直ぐに身體に當つても痛まぬやうな絹な衣服を着せ、釣臺の中には絹布の夜具布團を敷き、夫へ寢かし釣臺の四方は油團でスッカリ張詰めて風に當らぬやうにして、若王子の住居へ連歸りまして、即刻醫者を招いて診て貰ひますと 醫『何しろ牢問に掛つて疲れ切つて居る身體であるから、動かしてはなりません側で口を利てもならん、見らるゝ通り當人はモー漸さ呼吸が通つて居ると云丈けの事であるから元の身体に復すと云には百日も掛るであらう、夫も余程能く手當を爲なければなりません』と云醫者の診斷、勇吉初め一同は殊の外心配を致しまして、奥まりました靜かな座敷に床を設けて次の間に看病人を置いて晝夜才助を看護を怠らず世話を致しました、其處で取敢ず勇吉は甲府へ出て來て柳町の三枡屋に梁川庄八を訪れました 庄『オー宜う訪ねて來たのふ』勇『エー旦那樣……御蔭樣を持まして齋藥賣才助さんは赦免に相成まして御座います、是と云ふのも皆貴方樣の御骨折で、本人を伴れて御禮に上る所存でございましたが、永らく牢內に入れられまして拷問に掛り非常に身体が疲れて居りまして、醫者の診斷には斯う〳〵申ますので取敢ず私が御禮に出ました次第で、就ましては何うか本人全快まで御城下に御滯在を願ます、何れ全快の上は同道にて御禮に罷り出ます』と喜び勇んで禮を申述べました



京城新報

寺内總督閣下に申す　其三

水涙生

伯爵閣下、世に何が幾ら容易だからと申して、息子が親に貰つた金を遣拂ふる位容易な事はない。之れと正反對に世に何が幾ら六ケしいと申して、自分の力を以て獨立の生活をして行く位六ケしい事はない。諺に曰く、金を儲ける苦しみは死ぬ苦しみと、斯言や眞を穿つである。翻つて考へて見ると、閣下從來の經營は金を儲け出す方ではなく、[illegible]

[illegible] 目標、而して百般の施設は此目標を中心として爲されべきものである。

借問す、半島財政の獨立とは何ぞ。曰く、半島統治に要する費用の一切を半島自身に於て負擔すること、曰く、朝鮮駐劄軍及國防に要する在鮮師團の費用を半島の會計より支出する事。茲に云ふが如き財政の獨立を見るは至難事である、併しイツイツ迄も半島の特別會計に向つて母國の補助を仰ぐは母國財政の許さゞるところである。聰明なる閣下の言を俟たずして這般の消息に通ぜん、知らず閣下は如何なる方法に因つて財政の獨立を策せんとするか。

東京電報

▲對清方針確立　形勢觀望の態度を持せし我政府は元老大臣會議を開きたる結果東洋平和の保持上對清方針を確立するに至れり

▲首相と對清政策　西園寺首相は明日中帝國議會に臨み秘密會議を要求し對清政策につき言明する所あるべし

▲南京要請攻究　我政府は革命軍より要請に係る南京政府承認に付研究中なり

▲邦人殺害は誤報　二十一日芝罘發電に依れば二十日黄縣に於て官軍と革命軍衝突し本邦避難者六名殺害せられ十餘名に危險迫まれりとの報東京に達したるが右は衝突はありたるも邦人の殺害せられたるものなしとのこととなり

▲大藏省券發行　二十五日大藏省は一般會計大藏證券二千萬圓を發行し償還期限は三月五日として發行の事に決定せり

▲事務簡捷の訓令　原内相は廿四日官報を以て地方事務制に關する訓令を各地方官に發し同時に床次次官よりも各府縣に於ける事務の整理を圖らんが爲め一片の通牒を發したり

上海特電

▲北伐軍の出兵式　廿四日北伐軍第一大隊の五百名は歩兵第一聯隊第一大隊一回北伐隊として二十三日午前十時孫都督以下出城出兵式を行ひ午後四時出發馬尾に向へり二十四日招商局新興丸にて馬尾出發上海に向ふ

▲滿洲革黨の活動　廿四日奉天所着電　去る十六日革軍北伐隊の一部芝罘に到着せしが同時に滿洲各地の革命黨活動を始め漸次活氣を呈し革黨と馬賊との往復頻繁にして八面城法庫門等に馬賊の出沒頻繁となり爲めに大豆輸出杜絶の狀態にあり

▲船舶檢査廢止　武漢地方の官軍撤退せるより革命軍は九江通過の船舶檢査を廢止し且つ夜間航行禁止を解けり

北京特電

▲恭親王の意氣　恭親王は立憲黨員に對し君主制擁護の爲め意見書を送り君主立憲の爲めには更に今後の決戰をも辭せざる可き決心なりと激勵したり

雜報

●財務部長會議　各道財務部長會議は來る二月廿日頃より開會の筈なるが會議は多分五日間位にて終了すべしといふ

●軍慰問使の旅程　既報天皇陛下には朝鮮駐劄軍慰問の爲め奥村侍從差遣の御沙汰あり同侍從は今明日中東京發當地に向ふ筈なるが來月初め當地着夫れより慰問日程を決定の筈なるも其の順序は當地より平壤、開城同附近、大邱、鎭海灣、馬山、釜山を經て海路淸津に上陸羅南茂山等の各守備隊を慰問すべく右期間は約一ヶ月なりと云ふ

●民團來年度の事業　京城民團來年度の事業を聞くに本年度は歳出を先にし歳入の過不足に拘らず其計劃を定めたるが來年度の施設に就ては全然歳入を基礎とし增税又は負債を爲すこと無くして二月末日の收入狀態に依り豫算編製の筈なれば今日にては確定したる計劃にあらずと雖も來年度に於ては先づ學校の整理として南大門小學校の運動場、新龍山の小學校々堂の新築、日の出小學校の增築を第一とし次は新設道路として大和町八丁目より河岸に通ずる道路龍山元町より横に新町方面へ通ずる道路其他なるが第三の事業として民團裏手空地を一萬六千五百圓にて買收せし結果民團役所の增築を爲す計劃なりと云ふ

●農事改良と計畫　總督府農務課の施設として來年度に於ける事業を聞くに勸業費豫算として計上したるは土地改良獎勵費三萬圓棉作獎勵費五萬九千九百六十六圓なるが土地の改良は堤堰の修築にして棉作獎勵費は從來の棉採圃を增加し陸地棉の普及を獎勵するにあり次に補助費としては地方種牛改良の爲め其筋にて指定したる種牛に補助金を交付する爲め畜産補助費を設け品評會其他に對しては地方産業獎勵費を豫算に計上したる筈なり

●定例長官會議の開會　二十六日午前十一時三十分より總督府に於て定例長官會議を開き山縣政務總監以下各部局長官明石警務總長出席政務の打合せを爲し正午十二時散會したり

●京畿道管内巡回講習　京畿道にては從來各府郡に巡回教師を派し教育事務に從事せしめつゝありしが今回其巡回講習の方法を一變し一郡内五ケ所に講習所を設け附近の書堂生徒を集め一ケ所一ケ月五日以上の國語講習を爲す事とせり

懸賞論文募集

半島・鑛業・振興・策・

募集規定

一懸賞金壹百圓

右は當選論文發表と同時に當該論文寄稿者へ贈呈すべし。

一文章は論文體言文一致体何れにても宜敷成べく平易簡明なるを可とす。

一當選論文の決定は本社爲鷹鑛業關係諸大家の審判に因るものとす、而して當選論文の數は一篇とす。

一應募締切期限は來る三月一日とす

一當選論文の發表は來る三月十日の本紙上に於て爲すものとす。

一當選論文の發表は寄稿者の御希望に因り本名匿名何れになすも妨げなし但し匿名を要せらるゝ方と雖本社に對しては住所氏名を明かに通じ置かるゝ事。

一應募論文は當選外のものと雖應募者へ返還せざる事。

附記　本懸賞は實際的鑛業振興策を募集するものなれば文章の巧拙は敢て問はざるものとす

京城新報社

●京畿道の府郡守會議　京畿道廳にては二月十二日より各府尹、郡守を召集し約五日間會議を開く事に決定せりと

●京畿道明年度地方費　京畿道の地方費は經常部、臨時部を合して四十四年度は約二十九萬六千餘圓なるが明年度は典當權所得税、土地所有權證明税等の增收あり三十萬圓以上に達せり

●商銀共同倉庫合併期　共同倉庫と朝鮮商業銀行合併の件は既に双互重役間に於て假契約を訂結したるが倉庫は來る廿九日商銀は卅日の總會に付し其決定を待ちて實行すべしと

●鮮魚の騰貴と逆移入　近來朝鮮魚界に於ける鮮魚價格の騰貴につれ日本内地より鮮魚の逆移入を見るの傾向あるが之が原因は內地に於てトロル漁業の發達せると一は朝鮮海の沖合より直ちに內地に輸送せると更に一は鮮鶴方面に於ける鰤大敷網の漁獲夥かなるが爲めなるべしとのことなり

●寺内總督の病氣經過　靜養中なる寺内總督の病狀を聞くに容體は一兩日前も大差なく目下醫學博士佐藤京城衛戍病院長及同森安總督府醫院醫官の治療を受け居るが茲二三日中にして登廳するに至るべしといふ

●鮮人不正會社の解散　曩に會社令により其の設立を許可されたる京城中部長通坊鹽洞崔錫診代理名義の麴子製造販賣合資會社及京城東部昌善坊養健洞四十ノ六白鐘斗代理名義の京城普信合資會社は今回不正會社として會社令により解散を命ぜられたりと

●廣岡家の授産事業　大阪の富豪廣岡淺子女史は多年同地に於ける孤獨者のために慈善事業を行へ之れに依つて職を得産を成せしもの少なからざるが同女史は日鮮併合と同時に朝鮮人の一般が日本臣民となりたるを以て更に慈善の手を朝鮮に及ぼさんとし第一着手として朝鮮に於ける憐むべき寡婦の爲めに職業を授くべく企圖し而して之れが職業としては差し當り養蠶に若くはなしとし此の程管理人を京城に派し管理人は右養蠶事業に關し京畿道廳及び京城府廳に就て其の趣意を述べ之れが事業の適不適に就て質すところなり當局にては勿論養蠶事業の朝鮮には適當せるも既に同事業は近年幾多の日鮮人に依つて着手され而已ならず恩賜事業の一として全道到るところに行はれ居るを以て却つて他の事業に依るの利益なるべきを回答したるに管理人も其の意見に贊同し其の趣を主家に通牒したるに女史は却々に承諾せず如何にしても養蠶事業を計畫せんと熱中し居れる由なるが右計畫は最初傳習所を造りて鮮人の寡婦を養成し養成中は一切の費用を與へ修業後は資金を貸與して養蠶を爲さしめ又は教師として職を授くべしとのことなり

●土地收用法裁決申請　總督府にては目下永樂町三丁目より光熙門に至る道路擴築用地買收中にて不承諾者趙德清、王如山、清水元太郎の三名に對し收用法第九條に依り起業者寺內總督より檜垣長官に其の裁決方を申請せり

●日本海航路調査實行　日本海航路調査のため野手元山稅關長は今回浦鹽、舞鶴、及敦賀地方へ出張を命ぜられたりと

●鮮人側金融狀況　昨今舊節季前に恰當する京城朝鮮人側に於ける金融狀況は比較的大規模の下に商業を營み內地商人と直接取引關係を有する者は既に昨年末の決濟期に於て概ね其の決濟を終り目下決濟の必要あるは中流以下の鮮人間に於ける取引のみに限られ自然幾分金融の繁忙は免れざるも其の多くは延期其他の口實の下に決濟を怠る有樣にて格別金融上の變調は認めずと

●全南の營農資金融通　全羅南道にては地方小農が營農資金に缺乏する場合に於て金融機關が此等農民に對して穀物擔保にて貸付を爲すことは彼等小農の濫費を妨ぐと共に夫れより生ずる利益を保留し一面に於ては地方經濟の變調を防止するものあるを以て昨年中農工銀行及び各金融組合に對い之れが奬勵に努めしめしに農民經濟上に及ぼす効果著大なりしを以て今年は一層其の奬勵を企劃すべしと

●咸北道産業新計畫　四十五年度に於ける咸鏡北道廳の各種産業上の新計劃を聞くに農業に至りては同道は面積千七百方里耕地面積十萬余町歩なるに比して其の人口は僅に四十余萬人なるに拘らず地味瘠せ農産額少き爲め常に其の人民は食料にすら缺乏を感じ居るが之れ主として鮮農が耕地に人糞尿を利用するを知らざるに起因するものなれば一方耕作物に人糞利用法を周知せしむると共に畜牛の改良を計る必要上乾草を作らしむる傍ら堆肥製造法の教習をなさしめ又た北咸主要産物の一たる大豆に於ては在來の薄綠の外益々舶來大粒種栽培を獎勵し全道到る處養蠶に適するを以て盛に蠶業獎勵策を採り以て異綿生糸製造等の副業に於て同道農民の弊たる冬季閑居の惡習を匡め畜産に至りては年々內地其他への移輸出額廿萬圓に上るも其の品種は尚ほ改良の必要あり即ち種牛の購入劣等牡牛の去勢等に於て濫交尾を防止し專ら良牛の繁殖を企圖すると同時に同道移出牛は日本内地に於ける牛疫の本源なりとて甚く聲價を墮すに至りたるものあれば四十五年度に於ては從來の如く同道牛疫の本源地たる露領間島地方よりの移入牛に對して各檢疫駐在所に於て檢疫を行ふは勿論同道の産牛全體に對し血清注射を行ふべく其他各産業に涉りては同道地費稅僅に一萬六百圓内外にして到底道廳の力を以てしては之れが改良發達を企圖する能はざるを以て道廳にては同道内に於て今日未だ呂民鄕約なる現今の産業組合信用組合等の如き文明的の一種の契の形式の傳はるものあるを以て四十五年度中には管内千四百の各洞に一個の契を設けしめ道廳郡廳所在警察官等に於て之れを監督し組合員に產業資金の低利貸付をなす等自治的に教育林業交通等の各般に涉り之れが發達を企劃せしむる方針なりと云ふ

●民團の滯納處分件數　京城民團客年十二月中に於ける滯納處分件數は五百十六件金額一千九百七十八圓八錢にして納稅告知書を發せし數は七千五百八十二通なりといふ

●山縣政務總監の參賀　山縣政務總監小松外事局長、桑原秘書官は二十七日午前十一時より當地駐在獨逸總領事を訪ひ同國皇帝誕辰祝賀を述ぶる由

●軍司令官參謀長參賀　上田軍司令官並に榮參謀長は二十七日獨逸皇帝誕辰祝賀の爲め同日午前十一時三十分當地駐劄同國總領事館を訪問する由

●民團前道路買收價格　京城民團役所の前通りに於ける道路擴張は西側約十間巾の新道路を作り朝鮮銀行と民團役所とは一直線に通せしむる由なるが土地の買收は一坪百二十圓にて移轉料五十五圓なりと

●第二回表彰擧行豫定　既報の如く京城第一回の店員勤續表彰は盛況を極めたるが來る四十七年四月頃再び店員の表彰を行ふべく而して鮮人店員の表彰は今秋行ふべしといふ

●清國商務總會開會　當地在留清國人商務總會は來る二十八日午後六時より南大門通り華商總會に於て總會を開き對清貿易狀況に就き協議する由

●竹本副官忠清道視察　軍司令部竹本中佐は二十六日發朝鮮步兵隊將校並に部員數名を隨へ約二十日間の豫定を以て忠清南北兩道の守備隊及地理視察の爲め出張したりと

●李伯の別府着と滯在　李完用伯は廿四日午後二時別府着滯在豫定は一ヶ月

●宇佐川東拓總裁歸東　病氣療養のため東萊溫泉に避寒中なりし宇佐川東拓會社總裁は二十五日夜歸京したりと

●新任天野主計の着任　第十二師團附陸軍二等主計天野橙次郎氏は今回全州憲兵隊附を命ぜられ廿六日朝着任せり

●小池新任主計の出發　軍經理部員より大邱守備隊付に轉任したる小池一等主計は二十六日朝發赴任したりと

●第二師團の檢閲執行　朝鮮駐劄第二師團來る四月第八師團と交代後仙臺に於て特別檢閲を執行さるべしとは曩に報道したる處なるが愈々來る七月右檢閲執行に決定し檢閲使も略ぼ決定したりと云ふ

公人私人

▲奥戸善之助（辯護士）　二十五日天眞樓へ

▲天野橙次郎（二等主計）　同日原金へ

▲赤松時圓（漢農銀行忠州出張所長）　同日不知火へ

▲宇佐川一正（東拓總裁）　同日歸京

▲原田金之助（郵船重役）　同日釜山へ

▲京城手形交換高▼

	金高	枚數
一月廿六日	一六七、七三三、九二〇	四九三

▲茶袋▼

度支部で釀造試驗所を設けたのは四十三年の冬だ、トコロで最初は日本酒は勿論一方朝鮮酒の模範を示す爲めとあつて原料をウンと使ひ幾十石かを試造しサテ試みに聲價を世に問ふべく或る朝鮮の酒幕に賣捌方を交渉した迄は好かつたが酒幕の店主もさるものウンとは引受けぬ、ソシて其の返答が振つて居る『大に賣つてやる賣つてはやるが只ではイヤだ、蝎甫をつけた上で抱へて呉れ、さすれば客も來るつゝいで酒も賣れる』と此の返事を聞いた當局では開いた口が塞がらず『マサカ蝎甫の官營は出來まいチ』▲朝鮮郵船の創立委員長原田氏は郵船會社設立に就き或る人に逢ふいふことを言つたさうだ『我々は些ツとも會社に依つて儲けやうなどといふ氣はない、又會社も損をする覺悟だ』とスルト其の人は透かさず『ソレは好い料簡だ、併し今迄船に依つてドウガなコウガな鼻の下を洩いで居つた連中が飯の種を捨てゝ迄も損の行く仕事に着手するとは何ういふ料簡だらう』と突ッ込むと『其の料簡は知らぬ』と茶を濁したゲナ▲此の間入京した岡崎弁輔氏は或る往訪の客に向ひ『朝鮮の政治について民間側の意見も聽きたいが時日のないので殘念だ、イヤ寺內總督は大に寛大政治を喜ぶからね……』といひながら呵々大笑したさうな。

●禁酒　花眠生

『君酒を廢めたつて、眞實かね、怪しいもんだぜ君の禁酒說は、今迄で幾度か聽かされてるから信用出來んぜ。』四十四年の一月早々秋元零玉子から這麼前書きで手紙が來たことがある、實際自分は幾度となく酒の悔ひを友にも報せ盃を撤し樣と試みたけれ共『一体君は飮ける口だから』なんか勸められたり『烏渡貴郞廢うしたの今晩に限つて厭やにすましね、お奧さんの事でも思ひ出したの、罪だわ………』其麼ことはないつて噓被仰いよ………デハ一ログイと召し上がつて一ッ頂戴な、イヤモウ酒は廢めだつて、澤山はお毒だけれど少しは藥よ、酒なくて何の己れが櫻哉ですよサア』矢張り下地は好きなり御意は好し、すゝめ上手の一口グビリ舌に觸り腹に躍り込むが最後一合取つても武士は武士一口飮むでも酒は酒と曰ふ樣な工合で結局鯨飮する、無理飮みする、如斯して盃を撤すべくそこに多くの未練があつた。

然し自讃かも知れぬが自分は酒の癖としては餘り惡い方ではない所謂親なぞは『お前は酒癖は良いが体を大事と思ふならマア深酒するナ』と言はれて居つた。デ最初一本主義を遵奉して見たが成功しない、止むなしに二本となり三本となり遂に酒と心中する樣になる、これでは際限がないと想ふて自今禁酒の札を殊勝らしく神棚に張つて見る、其回毎に腹の裡の所謂酒の虫がクス〳〵笑ふ樣に覺わて自分ながら妙なインスピレーションに打たるゝこともあつた。自白するが四十四年度に於ける禁酒の札は勘く十枚以上に上つて神棚を飾つた『廢うしても酒は廢めることが出來ぬだらうか』此問題は自分として常に重大な懸命事であるのだ地軸一轉明治の聖代は此所に四十五の年を迎ねた。

四十四年、この歲は自分に採つて鮮なから波瀾のあつた就中酒興の上で失敗も多少の面目を失したこともある其都度節酒を試みた撤盃もした『モウ盃は採らん、假しあの時『………』しなかつたなら這麼に人樣に頭を下げて穴あらば入りたい氣も起らなんだものを『だから貴郞は男らしくないよ廢すなら斷然だ廢しなさらないから失敗があるのですよ』なんか妻奴にはキメッケらるゝし、イヤ酒はコリ〳〵だ、『そのコリ〳〵は何回聽かされたか知れないのネまた自分禁酒の札でもお張りなさいナ』

如斯く幾度か同じ意味に於て繰返されつゝ遂に一年三百六十五日も經過し早や生涯再び四十四回の歲月に逢着し得ぬとは心細い寂寥な愛子を失なつた後で遠い〳〵山寺の鐘を聞く樣な感がするじやないか。デ自分は歲改まると同時に萬物皆維新也として愈々酒を廢すと覺悟した、誰れが何と云はふが什麼別嬪がすゝめ樣が、無粹だ、野暮だ木强漢、ケチン坊、小心者、僞君子、と呼ばれ樣が斷然、決然、酒盃を手にせないと。

故に自分は今日まで酒に經て來た小事實に就て其感想やら愚痴やらを一纒めに書き連ねて廢酒の思出でともなろうかと此稿を草したのである。

酒は廢めた、酒は廢めた、誰れが何んと曰つたつて。

●襟留を咽喉に掛る

▽總督府醫院にて摘出

仁川花房町十三番地中山倉之進長男榮（一二歲）は去る二十二日遊戲中誤て婦人用襟留を嚥下し人事不省に陷りたるに愕き仁川病院に至り診療を乞ひしに總督府醫院の治療を乞ふべき旨を諭されしより即日午後八時頃同醫院に至りしより室谷外科長はエッキス光線に照し其所在を確めたる上坂井耳鼻咽喉科長の手に仍りて切開せずして之を取出すことを得たる由にて患者は呼吸安靜熟眠するに至り經過頗る良好なりど其取出せる襟留は胡蝶形經八分の金屬製にして二個の羽に銳利なる彎曲せる二ケの針を有しバチ式になり居るを以て呼吸毎に羽を縮むると共に彎曲せる針は其度毎に深く咽喉部の內壁に食い込むものなるを斯くも容易に取出すを得たるは一に坂井醫學士の手腕に依るものなりとて患者の父母は嬉し淚に暮れ居るを見たりさるにても世に小供持つ母親は注意こそ肝要なれ

●懇親宴上の活劇

▽何方が無理でしよう

事は少しく舊聞に屬すれども閣捨て難き節あるを以て聞くが儘を報道せんに警務總監部の高等探偵の特務曹長淸本熊吉氏は京城通信社長の宇都宮高三郎氏とは特殊の關係ありと號し常に案內も請はず階上の編輯室に出入するにぞ時には宇都宮氏も迷惑を感ずる事もありしが對手の職務に憚りて勉めて快く待遇し居るとは神ならぬ身の淸本氏夫れとは知らず普通の事に振舞ひつゝありし昨臘も押し詰りし二十何日かに宇都宮氏は取分け懇親の人を招きて自家樓上に於て忘年會を兼ねて懇親會を催ふし主客打解けて歡談の席へ荒々しく襖を押け開し挨拶も無く踏込みたるものあり一同何事の出來せし事か何人かと齊しく瞳を向けたる其處には强たか醉を帶びたる淸本氏が無言のまゝに仁王立ちに突つ立つてあり平常ならば宇都宮氏も野暮な谷め立てなどせざりしならんも如何に懇意とは云へ客人の手前淸本氏が口僻の如に云ふ特殊の關係あるが故に此無禮をも見逭すと思はれんも口惜しと思へば一喝せんは安けれど對手の職務に憚りて躍る胸を押へて言葉優しく御來宅下さるのは結構だが案內はして下さらんと塲合に依つて互に迷惑する事があるからと注意せしに應う聞き違ねたか淸本氏は赫となり**生意氣な事を云ふと特別の關係を絕つぞ**と譯の分らぬことを言ひ出したるを傍らに聞き居たる同社員井上信次氏は事面倒なりと見て取り同氏を宥め賺さんと試みしに生意氣云ふなと突き飛ばしたるに井上氏が承知せず拳を固めて**淸本氏の橫面を撲り飛ばし**たるにぞ居合せたる誰れ彼れ押し分けて其塲は其儘濟みたるが濟まぬは淸本氏の胸の內爾來覺ねて居ろの心から確執今に絕ねずとか然りとは狹い御量見野暮で候ふよ

●新町娼妓總代

▽より下の如き陳情書

嗚呼果して事實か果して事實ならば改良すべきである當局者も十渉せらるべきである他の樓主連就中取締たるものは事實を取調べて彼等の福利を增進すべきである、思ふに其悉くは決して虛構であるまい幾分の事實はあるものと信じられるのだ、（原文は讀み惡いから漢字を入れて書き直した）

私共は新町の娼妓ですが私共の親方は貧乏で吝ん坊で敎育の無い人ですから杉原院長さんにたつきあひも出來ず、と云ふてはないぐすりも遣りませぬから入院したり通院になつたりした時は誠に殘念な事計りで口惜くつてなりません一寸した疵でも何日までも退院されず**他所の方**には**親切**に藥でも洗滌でもして**私共**はた役目の樣にして碌に診もせんで**看護婦さん斗**りにさせます、だから治癒つたか不癒か譯は不明ぬから此からは檢査の度に入院患者を檢查の先生から診て檢査をして貰ふ如にして下さい、左樣成らずして病院の**院長**さんの**手加減**では出るものは直ぐ出られて私等の樣な者は入つたきり出る事は出來ず**借金斗り殖**ますドーゾ〳〵警察の署長樣も總監部とかの憲兵さんにも見ゐる樣に新聞に書いて下さい、而して**私共**を**助けて下さい**

大和新地娼妓中

京城新報樣

言々悉く血、句々悉く淚にあらずや其新聞に書いて而して私共を助けて下さいの一句の如何に凄愴なるよ、罪なくして呪はれたる薄命の子が其幸なき運命に泣けるに答するが如き憎き行爲果して事實なりとせば容赦ならじ、吁、鬼畜

豫告

元花月の仲居頭

れのぶの懷舊談

下ノ關川卯樓に其怪腕を揮ひつゝある元花月の仲居頭れのぶが京城花柳界全盛時代の懷舊談、彼の傀儡師が胸にかけたる人形箱鬼が出るか佛が出るか明日からの紙上に見よ

若も藝妓が壹萬圓の金子を持つたならば

興味ある此問題を以つて姐さん方の意見を聽いて逐次紙上に發表すべし趣味ある好讀物たるべきなり。

●何事ぞ花見る人の長刀

▽ラチクチも無い短銃沙汰

二十四日午後十時頃永樂町二の一二七細見傳次郎（三七）明治町二の番戶不詳長谷川乙吉（三一）同正代末三郎（三三）の三名は一杯機嫌で新町を素見し步き細見は第一樓に登樓し福壽を敵娼に長谷川正代の兩人は大和新地南海樓に登りさつきぼたんを對手とし各自別れ〳〵に陽氣に騷いだ後電話で細見を南海樓に呼び寄せ一同大浮かれに浮かれ十一時半頃細見は第一樓に歸りしに間も無く南海樓の兩人はさつきぼたんに仲居を隨へて第一に押し寄せて二時間ばかりも駄々羅遊びをしてゐる中ッーラヌことから長谷川と正代が口論をはじめ細見が仲裁に這入つたが兩人は耳にも入れず騷ぎ狂ふので這度は細見が怒り出し仲裁人は時に取つての氏神とも云ふのに俺の仲裁が氣に喰はなきや俺が喧嘩の對手になるから蒐つて來いと双肌脫いで立ちあがり長谷川を擲り飛ばせば醉ふた同志の理屈もへチャもあらばこそ入り亂れて今にも血の雨降らさんばかりの形勢なれば樓內總出になつて漸やく喧嘩を鎭めたので兩人は南海樓に歸つた未だ是れだけなら御話しにもならないが何と思ふてか再び正代が只一人第一樓に逆襲し細見の寢室に入り來たり呂律も廻らぬ舌で何か喋舌つてゐたが言葉の行き違ひで細見は蹶平起きあがり拳骨堅めて正代を亂打するにぞ怺ねかねて裏口より逃げ出だせば細見は表口より飛び出だし土足の儘で南海樓に馳け込み長谷川出ろッ〳〵と階子段に躍りあがるところ生憎く長谷川が下り來たるに出會したれば細見は隱し持つたる短銃を長谷川の胸に擬し今にも火蓋を切らんとするので吃驚し命懸けで細見の腕に嚙り付く騷ぎに樓內總出で兩人を押し別け人を派出所に走らせたれば詰合の鮫島巡查が飛んで來て双方を取調べたるも醉つてゐるので要領を得ず兎に角本署に引致して取調中

●秋吉富太郎氏訴る

▽油斷ならぬ鮮人

京城南山町二丁目二百八十二番地秋吉富太郎氏が去三十六年五月中富平郡徐丙輿より擔保として金一千二百圓を貸與し期限後買收したりと云ふ同郡石川面九芝里所在山坂面積二萬九千七百十七坪は慶尙北道星州郡砂川面新平洞一統二戶當時仁川府內面平洞三十七統八戶李在淵方李達和の所有地にして同人が遠隔の地に在りしを以て同地徐相晉に委托管理せしめ置きしものにて此の程同人が同地に出張せし處秋吉氏の標杭の樹立しあるを見て直ちに秋吉氏を相手取り該山坂所有權確認請求の訴訟を京城地方裁判所仁川支部に提起したりと

社告

一店員寫眞帖發刊

右は今回我商業會議所に於て勤續店員諸氏を表彰するの擧を貸し此機會に於て京龍仁各商店の店員諸氏紹介の目的を以て發刊するものなり詳細は後報すべし

京城新報社

●泣面の福助女郎

▽引戻された上に拘留

原籍廣島縣生れ當時舊龍山桃山遊廓開福樓抱第二種藝妓福助事岡田キン（二四）は昨年十二月三十日馴染客某と共謀の上同樓を逃走して鎭南浦へ到り潛伏し居りたるが此程發見せられ更に開福樓に逆戻りたる上二十六日龍山署に於て取締規則違犯により拘留に處せられたりと

●鼓友會發會式

這回實生觀世喜多高安の四流同好者合併して鼓友會なるものを組織したるが其の月並第一回を二十七日午後三時より大和町二丁目村上龍信氏宅に於て開會する由にて同好諸氏の御來會を望むと番組は左の如し

竹生島（中村、平島夫人、桐原）經政（中村、村上夫人）杜若（道家、平島夫人、桐原）雲雀山（道家、同夫人）枕慈童（松田、河井、桐原）舟辨慶（中村、杉田夫人）小袖曾我（杉田、村上夫人）班女（道家、桐原）清經（高田、長谷川）玉葛（高田、河井）海人（杉田、道家夫人）東北（杉田、同夫人）

●高味氏の來訪

廿五日商業會議所に於ける勤續店員表彰式に際し本社より各自に本紙六ケ月分の進呈券を贈呈したるに對し山口吳服店員高味庭三氏は勤續店員諸氏を代表し本社を訪問し謝辭を述べられたり

●大和倶樂部撞球大會

當地大和町の大和倶樂部にては今回東京撞球界の名手眞鍋五百點を招聘したるより其披露を兼ねて二十七、二十八、二十九の三日間新年初頭の競技大會を催すと會費金一圓五十錢十等迄賞を懸くと猶二十八日は會員の紀念撮影をなすとぞ

洋犬紛失

一、ドイツ種ポインター牝犬一頭

特徴　毛色肝臟色　肋に白點あり

兩足半白　短き尻尾　大きな光る

右は『ドラ』と呼べば來る犬なり御眼前の御方は左記へ御知せ被下候へば相當の謝禮を差上べく候

京城貞洞　ソンタク・ホテル方　ギブース

●竹內製金庫と大阪大火

當地熊平支店にて販賣せる竹內金庫の耐火力に富み且つ堅牢なるは世既に定評あるが現に先頃の大阪大火に當りて最も其特色を發揮し非常に賞讚を博せりと

●仁川の行旅病者

原籍鹿兒島縣生當時仁川府內面開豐旅館止宿市坪藤太郎（三四）は豫て病氣に罹り居たるが二十七日行旅病者として避病院に收容せり

●千二百圓を拐帶

仁川府內面內洞九統六戶鄭賢澤は二十四日從兄弟の鄭仁澤（三四）が金一千二百圓を拐帶したるにぞ其筋に搜查方を願出たりと

●北部

北壯洞統戶不詳擔軍崔德一（二二）は拾得物隱匿罪で二十五日檢事局

平民文庫

▲仁川花町二丁目古木德松さんの女房たいしさんとやら不謹愼が過ぎると知られずに濟む事まで世間に知られる事になりますよ此度の所は記者に於てた前さんに忠告する丈に止める（係）▲西小門內司法部官舍にた住居の淺○さん云々の投書はた預かり（係）▲新橋通り本願寺で英語を敎へるそうだから行きませぬか皆さん（中學生）▲父兄の一人と申さるゝ方に申す本名を本社に通せられたし（係）▲是迄二三度〇〇五丁目裏（町名不明）と申し忠告致し置きし賭博宿其後少しは悔悟致したかと思の外益々烈しく晝夜兼行警察にても御存じなきや否や元待合なりし佐藤と云ふ無職者宜敷當局者は嚴戒有りたき者なり（近所迷惑生）▲僕は先夜水標橋の停留所から明治町に行く間に下の如きことを見た▲支那町に入ると支那料理の二階から鮮人が唾を吐いたが通り蒐つた夫婦伴れの人の頭に落ちた▲黃金町材木屋の所を橫着者が小便を放れ〳〵町を步行く防寒外套を着た巡査は知てか知すか呆然として立つて居る（世話燒）▲鐘路役所の四方山氏は奸奴の言を妄信する勿れ卿に媚びる輩等二三名の前科や不德義極まる破廉恥漢たるを知り居るや昨年春以來同僚の平和を破るものは彼等なり若し聽かずんば此上筆誅せんのみ（之を出したものは福地なり）▲水原高野山敎會所は本堂建築に對し其筋の認可を得ずして一般寄附金の募集をしつゝあるが後日これが許可になるであろうか（敗遠家）